

○ 文字指導の内容の改善はどのように図られているか。

1 漢字指導

(1) 読みの指導については、学年別漢字配当表以外の漢字も、振り仮名を付けるなど、漢字を読む機会を充実させる（交ぜ書き→ルビ付き表記へ）。

* 交ぜ書きとは、熟語を表記する際に、習っている漢字は漢字で、習っていない漢字はひらがなで表記することである。

(2) 書きの指導については、これまでどおり次の学年までに定着を図るようにするが、当該学年においても文や文章の中で使えるよう、指導を充実させる。

2 ローマ字指導

○ 情報機器の活用や他の学習活動等との関連を考慮し、現行の4学年から3学年に移行する。

3 書写の指導

○ 手紙を書いたり記録をとったりするなどの実際の日常生活や学習活動に役立つよう、内容や指導の在り方の改善を図る。

| 第1学年及び第2学年 | 第3学年及び第4学年 | 第5学年及び第6学年 |
|--|--|---|
| ア 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。 イ 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。 | ア 文字の組立て方を理解し、形を整えて書くこと。 イ 漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと。 ウ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。 | ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速さを意識して書くこと。 イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。 ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。 |